

# 職場における交通安全指導

Part 137

【大型貨物車が構内にバックで進入した際、駐車中の大型貨物車に衝突】



## ■事故の概要

- 事故の当事者  
当事者A（大型貨物車）：50歳代、男性  
当事者B（大型貨物車）：40歳代、男性
- 被害状況  
A：左リアバンパー、フレーム中破  
B：フロントバンパー、パネル等中破

## 事故状況

運転経歴25年のベテランドライバーAは、大型貨物車で生活用品等を配送する業務に従事する会社に勤務している。

事故当日のAは、物流センターで生活用品を積込むために午前8時に目的地の物流センター前に到着、構内にバックで入ろうとした際、安易に自車をバックさせたため、待機場所に駐車している他の大型貨物車を見落とし、自車左後部をBが駐車させていた大型貨物車のフロントバンパー及びパネル等に衝突させた。

## 事故の原因

この事故の原因は、車道から構内にバックで進入する際、Aが安全確認を怠ったことです。

トラックには死角部分が多いため、バックする時は細心の注意を配ることはもちろん、運行しているのは自分の車両だけではないので、必ずサイドミラーやバックモニターだけに頼らず、車両から下車して自分の目で「よく見る」ことが必要です。

Aにとっては毎日積み込みを行っている慣れた構内であり、心理的な油断が生まれ、緊張感が欠けてしまっていたため発生した事故です。

## 安全指導

### （1）構内事故の防止

バックを開始する前に下車し、目視にてよく確認していれば、構内の他車両の駐車状況を確認でき、事故を防ぐことができたのは言うまでもありません。

構内では、車両に限らず施設やフェンスに接触、衝突する後退事故が多発しています。

構内事故は、重大な事故はもとより軽微な事故であったとしても、運送会社の信用・信頼を大きく失わせ、その回復には長い時間と努力が必要となります。

ドライバーに対し、軽微な事故であっても「小さな事故にも多くの危険が隠れていること。」などを認識させ、事故原因と防止策を検討し運転指導することも大切です。

### （2）安全確認の徹底

構内などの通い慣れた場所では、気の緩みが生じ易いものです。また、進入時に全体の状況を把握したつもりになったとしても、油断からくる見落としなどにより、今回のように待機している駐車車両に衝突する場合があります。

慣れた構内であっても、バックする際は、面倒がらず車から下車して車両の後方や周囲の安全の確認を目視で行いましょう。

### （3）慎重な運転の励行

構内は常日頃からの慣れが生じて油断を引き起こしやすいもので、バック時に周囲の状況を確認したつもりであっても油断から生まれる見落としによって、上部にある建物のシャッターや庇などに衝突する事故も発生しています。

さらに、他車の大半が停車した状態にあり、慣れた場所ほど緊張感が薄れがちとなり、事故が起こりやすい場所でもあります。

また、構内の建造物以外にも大型スーパーや物流センターなどの配送先の入口に面する歩道には、子どもや高齢者などの歩行者も通行していて、気を抜くと重大な対人事故に繋がる恐れがあり慎重な運転が必要です。

## 構内事故防止のポイント

駐車場や構内を安全に走行するための大事なポイントを実践されていますか？

（1）急ぐと事故を起こしやすいので、構内では徐行運転を心掛け、バックの際は窓を開け人が歩く程度の速度で走行する。

（2）構内の状況は刻々と変化するため、必ず周囲の状況を確認し、走行車両、歩行者の有無などに注意を払う。

（3）バック時は、ミラーやバックモニターだけに頼ることなく、必ず下車して後方や上方など周囲の状況を目視確認する。

（4）ハザードを点灯し、周囲に注意喚起するとともに、安全確認を確実に行うために、声を出して自分に注意を促すコメントリー運転を実践する。

目と耳から得た情報を認知、判断して整理・伝達するので、情報が正確に伝わると言われています。

構内事故に係わらず、「だろろ運転」ではなく「かもしれない運転」に切り替えて緊張感を持った安全運転をお願いします。

### <構内事故の発生状況>

衝突物	区分	構内事故件数(対物)	
		件数	構成率(%)
車両		261	37.9
構内施設		168	24.4
建物		128	18.6
シャッター		45	6.6
フェンス・塀		51	7.4
門柱		22	3.2
その他		13	1.9
合計		688	100

【2023年度対物事故総件数は1,679件】

※対物事故のうち構内事故の割合は41.0%